



「大震災と外交」のリーフレットより

## 【外務省外交史料館(別館)の企画展示「大震災と外交」】

### 「大震災と外交」——史料が同時代の想像力を喚起する

本号トップ記事で、国の「Japan.Thank You.」キャンペーン、諸外国の支援状況、米国政府と米日カウンシルの「TOMODACHI」(「トモダチ・イニシアティブ」)を取り上げた。本項では、現在開催中の外務省外交史料館(別館)企画展示「大震災と外交」を紹介しよう。

企画展示「大震災と外交」は、2011年11月4日にスタート、本年6月29日まで7カ月に及ぶロングランだ。副題に「関東大震災と明治・昭和三陸地震」とあるように、関東大震災を中心に3つの近代日本で起こった大災害について、外交史料からうかがえる被害状況、諸外国の支援、日本政府の対外措置や復興策を振り返るという趣旨。史料(文書、複製写真など)展示規模は小さく、ちょっとしたぞく程度なら30分余もあればひと通り見学できる。しかし、それぞれの災害の概要や被災地の特性、時代背景に思いを巡らし、さらに東日本大震災の被災状況、国の対応、被災地救援・支援、世界の支援などと重ね合わせて見直せば、その倍以上の時間がたちまち経過するだろう。ここでは関東大震災関連史料を中心にみる。1896年明治三陸地震、1933年昭和三陸地震関連も点数は少ないが、想像力が補ってあまりない。

### 【関東大震災】

▼発災:1923(大正12)年9月1日11時58分に神奈川県相模湾北西沖を震源とするM7.9の大地震が関東大震災を引き起こした。死者・行方不明者は10万5000人余。外務省から発電できず海軍の無線を通じて在外公館へ発せられた電報の日付は、発災から1日以上経過した9月2日午後4時30分。電文冒頭に「九月一日正午安政以来ノ大地震アリ」とあり、安政大地震の記憶を生々しく蘇らせる表現が、この時代を映しつつ現代にも呼応する。

在名古屋の米国領事が東京の米国大使館員の安否を外務省に問い合わせた文書の日付が9月5日になっており、当時、情報途絶の様子がわかる(米国大使館は全焼、横浜で米国領事が死亡)。政府が各国援助について「歓迎するものの、人員派遣については言語風俗が錯綜を来たすおそれがあるので辞退」と閣議決定、また救援物資を積んだソ連船入港について“革命思想の宣伝に警戒”し、“好意を謝しつつ即時退去を命じた”(日ソ国交は断絶中)。

地震発生の第1報は、震災当日に横浜港に停泊中の船舶から無線で発せられ、これを受けた福島県磐城無線電信局がサンフランシスコ等に向け打電、世界中に広がったという。米国では現地時間1日の新聞で報道され、「首都東京壊滅」「死者数十万」の見出しが躍り、日本支援の機運が一挙に高まった。

▼救援・支援:関東大震災による経済的損失は約55億円(当時の国家予算の約4倍)とされるが、米国赤十字を中心として集まった義捐金は最終的に約1500万円と突出(外国義捐金総額の約67%)。当時すでに米国が最大の支援国であったことも興味深い。義捐金総額10万円以上の国をみると、米国を別格に、英国(約420万円)、中国(約166万円)、オランダ(約38万円)、フランス(約26万円)、ペルー(約18万円)、ベルギー(約14万円)、メキシコ(約14万円)などとなり、総額は約2223万円(義捐金のみ。支援物資の額は含まれない)。

中国が3大支援国となった背景に関心が惹かれる——中国は当時、孫文を指導者として中華民国が建国(1912年)されたものの軍閥による内紛状態にあり、第一次世界大戦下、日本政府の対華二十一カ条要求(1915年)や五四運動(1919年)が起きて排日・反日気運が高まっていた。しかし中華民国・北京政府は、「外交問題と人道的支援は別」として義捐金のほか米など救援物資の対日支援を行う。また、前清国皇帝宣統帝(愛新覺羅溥儀)からも義捐金のほか高価な寄贈品(同リストを展示)が贈られ、各政治勢力からも日本との緊密な関係を競うように義捐金が送られた。日本側はこうした中国による予想を超えた支援に驚き、これがきっかけで日中間の政治的緊張関係が一時的に緩和されたというエピソードがある。

いっぽう、東京で被災したウッズ米国大使は、米大使館が全焼したにもかかわらずすぐに日本援助を申し出、米務省に電報を送り、100万を超える被災者のために食糧と仮設住宅用資材を送るよう要請。5日には米軍艦が外国初の援助船として横浜港に入港した。クーリッジ大統領も震災を知ると同時に中国方面に展開していた軍艦を救援のため横浜方面に派遣、2日には大正天皇に見舞い電報を送り、3日には米国民に救済資金の寄付を呼びかけている。

ほかに、1930年に帝都復興祭が行われた後の昭和天皇とキャッスル米国大使との「震災会談」要旨が展示されている。「日本固有の力と驚くべき想像力によって一大復興を遂げたことは賞嘆に値」との米国大使の発言記録が、東日本大震災と呼応する。



在ベルギー安達大使から松井外相宛公信、大正13(1924)年2月5日発。ベルギーで行われた日本支援のチャリティ音楽会のプログラム(「震災と外交」)ホームページより



外務省外交史料館(別館)「大震災と外交」  
・場所:外務省外交史料館別館展示室(東京都港区麻布台1-5-3/電話:03-3585-4511)  
・開催期間 2011年11月4日~2012年6月29日  
・開館時間:10時~17時30分(年末年始・土日・日曜日・祝日を除く)/入場無料